





日文 701740558

津宮久孝

美善集注



卷八

中央公論社

萬葉集注釋卷第八 奧附

昭和三十六年一月三十日初版 昭和四十四年四月二十五日十二版

著者澤瀉久孝^{おもたけひさたか}

發行者山越豐

印刷者高橋武夫

製版印刷所大日本印刷株式會社東京

都新宿區市谷加賀町二丁目十二番地 發行所中央公論社東京都中央區京橋二丁目一番

地振替東京三四番

定價千七百圓

本文抄造

三菱製紙株式會社

表紙麻布

望月株式會社

口繪(コロタイプ)

株式會社東京寫真印刷所

製本所

小泉製本株式會社

製函所

加藤製函印刷株式會社

凡例

一、原本の傳はらない古典の注釋の底本としては、その原本の時代に近い古寫本か、世に最も廣く行はれてゐる流布本か、いづれかが用ゐられがちであるが、兩者に一長一短のある事、他の古典の場合にも既に述べられてゐるところである。私はその兩者の長を採らうとして底本の二本立といふ事を思ひついた。定本萬葉集以來、西本願寺本を底本とする事が二三の注釋書にも行はれてゐるが、それは廿卷完備した最も古い寫本としてうなづかれる態度ながら、西本願寺本と流布本とは大體系統を同じくするものであるから、私は系統を異にする古寫本と流布本（寛永本）とを照合して、兩者の間に異同がある場合はその正しいと認めた方を採つた。従つてそのいづれか一本が誤と明瞭に認められるものは一々注を加へない。その底本とした二本以外の諸本、諸注によつて訂正したもののみ注を加へた。たとへば（社）とあるは二つの底本にはその文字無く、京都大學本にあるによつた事を示し、（代）縁とあるは底本をはじめ諸本に「縁」とあるを代匠記によつて「縁」と改めたものであり、（代）夜毛とあるは底本に無いが、「夜毛」の脱字と認むべきでないかと思はれるものである。

一、流布本と系統を異にする古寫本は殆ど廿卷完備したものなく、中には斷簡に過ぎないものもあるから、歌一首一首に

ついでどの古寫本を底本としたかを注記した。それによつてその歌の古寫本がどのあたりまで溯り得るかを明らかにし、訓話の參考にすると共に、古寫本の新なる發見に備へる事も出來ようと考へたからである。たとへば原文の下に（類、六・六）とある歌は、桂、金、天、元等の古寫本は傳はつてゐない事を示すものである。それら古寫本の時代については正確には定め難いが、本書に底本とするに當つては次の如き順によつた。

桂、金、藍、天、元、金砂子切、類、古、紀、尼、嘉。

一、古寫本の校合は複製本のあるものはすべてそれによつた。複製本に漏れたものは原本によつた。その場合はその所在を明らかにした。陽明本と京大本とは著者みづから原本について校合を加へた透寫本（著者所藏）を用ゐた。冷泉本、金澤文庫本、細井本、大矢本は校本萬葉集の注記に従つた。

二、原文の文字は大體舊字體（當用漢字體に非ずといふ意味）を用ゐたが、誤字考察のたよりを考へて、原本又は原本に近き書體と認められるものはそれによつた。「尔」（二六三）、「紉」（二五二）、「礼」（二六五）、「蒨」（二六五）、「与」（二六四）の如きである。

一、原文の下に注記（類、十二・四六）は類聚古集第十二卷四十六頁の意であり、（古、五・一二オ）とあるは古葉略類聚鈔第五册十二丁表の意である。古葉略類聚鈔の現存の卷は八、九、十、十二と、卷名不明の卷との五册であるが、本書では複製本にかりに一、二、三、四、五と名づけられてゐるのに従つた。

一、本文に引用の萬葉集の歌には番號を記した。（四・七二）とあるは卷四にある七七一番の歌である。卷數をあげないものはその注釋の卷の中の歌である。

一、萬葉集以外の歌集その他諸書の下に數字はすべて卷數を示す。日本書紀は卷數によらず單に神代紀上、神武紀などと

記した。古事記も中巻、下巻など書かず、神武記、仁德記などと記した。伊勢物語は池田龜鑑氏の校本にも採用せられてゐる天福本の段数をあげた。新撰字鏡は天治本によつた。享和本、群書類従本によるものは(享)(群)と注した。「倭名抄」と書いたものは倭名類聚抄十卷本であり、「和名抄」と書いたものは同、廿卷本である事を示した。高山寺本は(高)と注した。類聚名義抄は(佛、上)(法、中)など注したものは觀智院本である。色葉字類抄(上)(中)など記したものは三卷本(古典保存會刊)であり、伊呂波字類抄(一)(二)など記したものは十卷本(日本古典全集所収)である。

一、書名を省略して引用したものを左に掲げる。

桂	桂本萬葉集	壬	傳王生隆祐筆本萬葉集
金	金澤本萬葉集	嘉	嘉曆(傳承)本萬葉集
藍	藍紙本萬葉集	紀	紀州本(校本に神田本とあるもの)萬葉集
天	天治本萬葉集	西	西本願寺本萬葉集
元	元曆(校)本萬葉集	細	細井本萬葉集
類	類聚古集	陽	陽明文庫本萬葉集(京都大學所藏。校本に溫故堂本とある親本)
古	古葉略類聚鈔	矢	大矢本萬葉集
尼	尼崎本萬葉集	京	京大本萬葉集(校本に京都帝國大學本とあるもの。曼珠院舊藏)
冷	冷泉本萬葉集	無	無點本萬葉集
文	金澤文庫本萬葉集		

動植正名 萬葉古今動植正名 山本章夫

寬
寬永本萬葉集

美 萬葉集美夫君志 木村 正辭

仙
萬葉集註釋

仙覺

文字辨證 萬葉集文字辨證 木村 正辭

(仙覺抄ともいふ)

拾
萬葉拾穗抄

北村
季吟

字音辨證 萬葉集字音辨證 木村 正辭

管見
萬葉集管見

下河邊長流

訓義辨證 萬葉集訓義辨證 木村 正辭

代
萬葉代匠記

契
冲

新考 萬葉集新考

（引用にあたり平かなを用ゐたものは初稿本、片カナを用ゐたものは精撰本）

童
萬葉集童蒙抄

荷田 信名

考
萬葉考

賀茂
眞淵

萬葉集楓乃落葉

荒木田久老

玉 萬葉集玉の小琴

本居宣長

略
萬葉集略解

加藤 千蔭

檜
萬葉集檜孺手

橘守部

攷
萬葉集攷證

岸本由豆流

古義 萬葉集古義

鹿持
雅澄

註疏
萬葉集註疏

近藤 芳樹

美 萬葉集美夫君志 木村 正辭

文字辨證 萬葉集文字辨證 木村 正辭

字音辨證 萬葉集字音辨證 木村 正辭

訓義辨證 萬葉集訓義辨證 木村 正辭

新考 萬葉集新考

(安藤野雁と井上通泰と兩氏に同名の著書がある。井上氏新考と記したところがあるが、安藤氏のは引用するところが少く、單に新

考とあるは井上氏のものである。それも歌文珍書保存會刊行のものと國民圖書株式會社刊行のものとなり、主として前者によつたが、「増訂」と記したところは後者によつたものである。）

增、選
增訂本萬葉集選釋
佐佐木信綱

口譯 口譯萬葉集 折口 信夫

總索引 萬葉集總索引 正宗 敦夫

新講 萬葉集新講 次田 潤

新訓
新訓萬葉集
佐佐木信綱

講義 萬葉集講義 山田 孝雄

新解 萬葉集新解 武田 祐吉
新釋 萬葉集新釋 澤瀉 久孝

(伊藤左千夫氏にも同名の著がある。その場合は著者の名をあげた。)

私解 萬葉集私解 花田比露思
全釋 萬葉集全釋 鴻巢 盛廣

難語難訓攷 萬葉難語難訓攷 生田 耕一
秀歌 萬葉秀歌 齋藤 茂吉

評釋篇 柿本人麿評釋篇 齋藤 茂吉
雜纂篇 柿本人麿雜纂篇 齋藤 茂吉

新見 萬葉集新見 森本 治吉
講話 萬葉集講話 澤瀉 久孝

小徑 萬葉集小徑 土屋 文明
古徑 萬葉古徑 澤瀉 久孝

作品と時代 萬葉の作品と時代 澤瀉 久孝

新校 新校萬葉集 澤瀉 久孝
定本 定本萬葉集 佐伯 梅友
武田 祐吉 佐佐木 信綱

染草考 日本上代染草考 上村 六郎

植物新考 萬葉植物新考 松田 修

動物考 萬葉動物考 東 光治

續動物考 續萬葉動物考 東 光治

全譯 全譯萬葉集 武田 祐吉

全註釋 萬葉集全註釋 武田 祐吉

(改造社版と角川版とがある。本書は主として前者によつたが、増訂されたところは後者によつた。現代かなづかひになつてゐるものは後者よりのものである。)

評釋 萬葉集評釋(橋田東聲氏、金子元臣氏、窪田空穂氏に同名の書がある。本書には著者の名を附して引用した。)

評釋 評釋萬葉集 佐佐木信綱
(これも著者の名を附した。)

大成 萬葉集大成 平凡社版

私注 萬葉集私注 土屋 文明

歌人の誕生 萬葉歌人の誕生 澤瀉 久孝

古典大系本 古典文學大系本萬葉集 高木市之助
五味 智英

大野 晋

一、本書へ引用の雜誌名で、同名が他にもありなどして疑問をもたれるかと思はれるものの發行所を左にあげておく。

國文學 關西大學國文學會

女子大國文 京都女子大學國文學會

山邊道 天理大學國文學研究室

一、引用の諸書の文章は文字もみだりに變更しなかつた。但、假名に一切濁點を用ゐないものは、馴れない讀者の不便を考へて濁點を加へた。仙覺抄、代匠記などの注の如きである。

一、現代諸家の論攷の題目には「」を加へ、單行本には『』を加へて區別した。

一、上代特殊假名遣については本書中それぞれの場合に當つて述べたが、初學の方の爲に、萬葉ではア行のエ(衣)とヤ行のエ(延)との區別の他に次の十二音の區別があつた事を列舉しておく。

(甲類) 伎^キ、祁^キ、古^コ、蘇^ソ、刀^ト、努^ヌ、比^ヒ、敵^ヘ、美^ミ、賣^メ、用^ヨ、路^ロ

(乙類) 紀^キ、氣^キ、許^コ、曾^ソ、止^チ、乃^ノ、非^ヒ、閑^ヘ、未^ミ、米^メ、余^ヨ、呂^ロ

萬葉集注釋卷第八

萬葉集卷第八

春雜歌

志貴皇子懽御歌一首 (四二〇)	一九
鏡王女歌一首 (四二九)	二五
駿河采女歌一首 (四三〇)	二七
尾張連歌二首 名闕 (四三一、四三二)	二九
中納言阿倍廣庭卿歌一首 (四三三)	三〇
山部宿祢赤人歌四首 (四三四—四三七)	三一
草香山歌一首 (四三六)	三九
櫻花歌一首 并短歌 (四三六、四四〇)	三七
山部宿祢赤人歌一首 (四四一)	四二
大伴坂上郎女柳歌二首 (四四一、四四二)	四三

大伴宿祢三林梅歌一首 (四四)	四五
厚見王歌一首 (四五)	四六
大伴宿祢村上梅歌二首 (四六、四七)	四七
大伴宿祢駿河麻呂歌一首 (四六)	四九
中臣朝臣武良自歌一首 (四六)	五〇
河邊朝臣東人歌一首 (四六)	五一
大伴宿祢家持鷲歌一首 (四二)	五三
大藏少輔丹比屋主真人歌一首 (四二)	五四
丹比真人乙麻呂歌一首 屋主真人第二之子也 (四二)	五六
高田女王歌一首 高安之女也 (四四)	五七
大伴坂上郎女歌一首 (四五)	五八
大伴宿祢家持春鳩歌一首 (四六)	五九
大伴坂上郎女歌一首 (四七)	六一

春相聞

大伴宿祢家持贈坂上家之大嬢歌一首 (四六)	六三
大伴田村家之大嬢与妹坂上大嬢歌一首 (四九)	六六
大伴宿祢坂上郎女歌一首 (四〇)	六七
笠女郎贈大伴宿祢歌一首 (四五)	六八
紀女郎歌一首 名曰小鹿 (四五)	六九
天平五年癸酉春閏三月笠朝臣金村贈入唐使歌一首 并短歌 (四三—四五)	七〇
藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首 (四六)	七五
娘子和歌一首 (四七)	七六
厚見王贈久米女郎歌一首 (四八)	七六
久米女郎報贈歌一首 (四九)	七七
紀女郎贈大伴宿祢家持歌二首 (四〇、四六)	七八
大伴家持贈和歌二首 (四三、四四)	八二
大伴家持贈坂上大嬢歌一首 (四六)	八三

夏雜歌

藤原夫人歌一首 (四六五)	八五
志貴皇子御歌一首 (四六六)	八六
弓削皇子御歌一首 (四六七)	八八
小治田廣瀬王霍公鳥歌一首 (四六八)	八九
沙弥霍公鳥歌一首 (四六九)	九〇
刀理宣令歌一首 (四七〇)	九一
山部宿祢赤人歌一首 (四七一)	九三
式部大輔石上堅魚朝臣歌一首 (四七二)	九四
大宰帥大伴卿和歌一首 (四七三)	九七
大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首 (四七四)	九八
大伴坂上郎女霍公鳥歌一首 (四七五)	九九
小治田朝臣廣耳歌一首 (四七六)	一〇〇

大伴家持霍公鳥歌一首 (四七)	一〇二
大伴家持橘歌一首 (四八)	一〇二
大伴家持晚蟬歌一首 (四七)	一〇三
大伴書持歌二首 (四八、四九)	一〇四
大伴清繩歌一首 (四九)	一〇六
奄君諸立歌一首 (四九)	一〇六
大伴郎女歌一首 (四九)	一〇七
大伴家持唐棣花歌一首 (四九)	一〇八
同家持恨霍公鳥晚喧歌二首 (四九、一〇〇)	一〇九
同家持懼霍公鳥歌一首 (四九)	一一一
同家持惜橘花歌一首 (一〇〇)	一一一
同家持霍公鳥歌一首 (一〇〇)	一一二
同家持雨日聞霍公鳥喧歌一首 (一〇〇)	一一三
橘歌一首 遊行女婦 (一〇〇)	一一五
大伴村上橘歌一首 (一〇〇)	一一五

大伴家持霍公鳥歌二首 (四四、四五)	一二六
大伴家持石竹花歌一首 (四六)	一一八
惜不登筑波山歌一首 (四九)	一一九

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首 (四九)	一二一
大伴四繩宴吟歌一首 (四九)	一二二
大伴坂上郎女歌一首 (五〇)	一二五
小治田朝臣廣耳歌一首 (五一)	一二六
大伴坂上郎女歌一首 (五二)	一二七
紀朝臣豐河歌一首 (五三)	一二七
高安歌一首 (五四)	一二九
大神女郎贈大伴家持歌一首 (五五)	一三〇
大伴田村大嬢与妹坂上大嬢歌一首 (五六)	一三〇